

請願は趣旨採択



議請第3号 市立小・中学校給食費の無償化を求める請願

【請願内容の概略】 請願の最大のポイントは、富士宮市立小・中学校の全児童・生徒の給食費を無償とすること。また、その無償化の財源については、国による国費負担を要望し続ける一方、市独自の財源でいち早く行ってほしいとのことでした。

総務文教委員会

今回の請願の審査を担当したのは、富士宮市議会総務文教委員会です。総務文教委員会の共通認識としては、学校給食費の無償化には異論なく賛成するものでした。しかし市長会や市議会議長会を通して「国の責任において、全ての自治体が給食費無償化を実施できるように」働きかけていること。また、市の財源確保の見通しがはっきりしない中で、大きな財政負担の生じる施策を市当局に求めることについては、議員により考え方が分かれました。採決を行った結果、市に対して財政的負担を強いることになるため採択はできないが、願意には賛成できる点もあるため、趣旨採択（※）すべきものと決定しました。この決定を12/6の本会議で諮り、富士宮市議会としての最終意思を決定します。

※趣旨採択とは…請願について願意は妥当であるが、実現性の面で確信が持てないような場合（財政的事情等）に、不採択とすることもできないとして採られる決定方法のこと。

12/6 本会議での討論 賛成討論は趣旨採択に賛成、反対討論はこの請願と趣旨採択に反対。

賛成討論

請願の“趣旨”に賛成。

趣旨採択に賛成 村瀬旬 議員

給食費の国負担については賛成です。但し、請願は全額市負担としており財政的に負担が大きいため賛成できません。全国市長会としても、国負担にせよと要望を出しており、今後も国に働きかけていただきたい。



市も一歩を踏み出して 渡辺佳正 議員

子育て支援、食育の推進、食の安全確保などの観点から、学校給食費無償化が果たす役割は大きい。無償化を国の制度として求めると同時に、市独自の財源で一歩を踏み出すことは当然である。



財源を生み出す工夫を 稲葉晃司 議員

財源があれば学校給食費無償化に対して、反対する理由はないと思う。我々議員は、市当局に提案提言することで無駄を無くすことにより無償化の財源を作り出すこともできるはずと考え、この請願は趣旨採択すべき。



反対討論

給食費無償化自体には賛成。しかし…

市民の声を継続審議へ 中野健太郎 議員

市独自の無償化実現に向けた予算捻出は増税にも関係します。市当局に大規模予算を投入する事業を求めるのであれば、市議会としても広く市民の声を聴き、課題を整理・精査するための継続審議をすべきと強く訴えます。



どんなに良い請願でも 佐野和也 議員

請願理由に「一部の貧困な人だけが無償なのは差別だ」などの行政の支援や援助を受けている市民に対しての差別的な発言や、学校教育と教職員を軽視する内容も多く、そのような請願理由ではどうも賛同はできません。



市への財源負担反対 佐野寿夫 議員

無償化には賛成ですが、「請願趣旨及び理由」に記載の「市としてまず給食無償化を実現してください」と署名簿の訴えが願意と判断し、請願反対。また、本請願の本当の趣旨は市としての無償化のため趣旨採択も反対。



【賛否が分かれた議案】

○は賛成。×は反対。

議員名 (議席番号順)	近藤千鶴	岩村恵美	仲亀恭平	平下尚己	赤池弘源	中野健太郎	齋藤和文	山藤陽子	稲葉晃司	臼井由紀子	佐野和彦	小松快造	辻村岳瑠	芦澤秀典	佐野寿夫	望月芳将	渡辺佳正	鈴木弘	植松健一	村瀬旬	諏訪部孝敏	佐野和也	
議案・結果																							
議請第3号 市立小・中学校給食費の無償化を求める請願 (趣旨採択すべきか否かの賛否)	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×	○	○	○	○	○	※	×	

※議長は表決に加わりません

趣旨採択すべきが11人、趣旨採択すべきでないが10人となりました。